

入学によせて

～平成28年度入学式式辞より～

理事長・学校長 小林 玉枝



学校法人 小林学園 本庄東高等学校附属中学校

きりぐるま

第48号

花の色も目に美しい今日、ここに第十一回入学式を挙行し、百十六名の新入生を迎えることができました。これまでもお子様を慈しみ育てて来られた保護者の皆さまには、心よりお祝いを申し上げます。心にも、お子様の夢の実現に向けた歩みのお手伝いが出来ますことを感謝申し上げます。

新入生の皆さん、入学おめでとう。今日は大切な出会いの日です。私たち学園の教職員は、皆さんとのこの出会いをとても楽しみにしてききました。皆さんの一人ひとりが、六年間の学園生活の中でさまざまな可能性を形にして、私たちに驚かせてくれると思うからです。皆さんは、無限の可能性を持ってきます。その可能性は、それを引き出すきっかけがあれば必ず花開くものと、私たちは信じています。そしてそのきっかけとなる学びの機会をたくさん用意しています。皆さんには、これらの学びの体験に積極的に取り組み、自分のものにして欲しいと思います。そのためにも、周りの人たちが自分に関わる物事のすべてに対して前向きに向き合うことが大切です。友達や先生方との出会いを始め、教科の勉強や学校行事との出会いを通して、皆さんには、高い学力と豊かな人間性を身につけてもらいたいと願っています。

そのために、皆さんに心掛けて欲しいことがあります。それは、人にも物事にも、いつも「素直な心」で接することです。他の人と触れ合う時には、素直な心で相手の気持ちを考えてみましょう。物事に取り組む時も、まずは素直な心で始めてください。何も分からないうちに、好き嫌いや善し悪し、また必要かどうかといったことを決めつけてしまうと、身の周りの人や物が自分から離れてしまいます。素直な心で人や物と向き合い、相手の思いや物事の大変な部分を理解してみようとする気持ちが大切なのです。素直な心を持ち、たくさんの出会いをかがえのけないものにして豊かな心を育ててもらえるように期待しています。

さて、保護者の皆様には、中学生という多感な時期を迎え、お慶びとともに、一方でご心配も尽きないことと存じます。学校と致しましては、保護者の皆様との連携を密にしつつ、総力を挙げて教育に当たる所存でおります。六年間の学園生活におきましては、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。結びに当たり、本日もご臨席を賜りましたご来賓ならびに保護者の皆様へ感謝申し上げますとともに、新入生の学園生活が実り多いものとなることを願い、式辞と致します。

夢のスタート

教頭 小柏 茂夫



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんのご入学を心から楽しみにしております。受験勉強という努力が報われ、入学試験を見事突破し、合格というキップを手に入れた時の感動は、これからの学校生活にとって大きな宝物となります。

皆さんの入学は、本校にとって十一期生となります。五期生の先輩たちも素晴らしい実績を残し、大きな夢の実現に向けて学園を巣立ちました。新入生のみならず、今日から本校の生徒として、自覚とプライドを持ち、日々を充実させ自己を鍛えてください。先輩たちに追いつき、追い越せるよう頑張りましょう。

中学校生活は、小学校時代と大きく変化します。そのため、教わる勉強と、自ら学ぶ勉強が必要です。授業の前に、分かる事柄と分からない事柄をはっきりさせ(予習)、教わる勉強、授業を受けるのです。そして、授業を受けた後に、勉強した内容を確認し、きちんとまとめておきましょう(復習)。知識や技術は、時間や労力をかけずに習得できるものではありません。大切なのは、そのような学習習慣を身につける事です。それには強い意志が必要です。強い意志を持つためには、人生の目標を見つける事です。そのためには自分を知ること、自分の長所や短所を自覚した上で、自身を磨き、向上させる心を持ち続けながら、日々の学校生活を送る事が大切なのです。勉強面はもちろんですが、心を磨く事も大切です。そのための学校行事も盛り沢山です。行事を通して、より大きく成長していきましょう。未来につながる夢の扉を開けましょう。

合唱コンクール

三月十二日、第九回校内合唱コンクールを行なった。どのクラスも練習を重ね、素晴らしい歌声を響かせてくれた。

今回は中学校生活最後の合唱コンクールであり、私は昨年に引き続き指揮者を任されました。昨年は納得のいく結果ではなかったのですが、その悔しさをバネに有村先生のご指導のもと、クラス一丸となって頑張りました。三年一組の自由曲は「青葉の歌」という、世界平和と人類愛を訴えかけ



この結果は、三年間ご指導いただいた先生方への恩返しになったのではないかと存じます。指揮者として、クラスの皆と共に一つの歌を作り上げられたことを誇りに思い、感謝の気持ちでいっぱいです。(小松歩夢)

組別	1組	2組	3組
結果	1年	2年	3年
最優秀賞位	3	3	3

作文コンクール受賞報告

国際協力機構主催国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト中学生の部 佳作
田辺聖子文学館ジュニア文学賞 小説部門 優秀賞
手紙作文コンクール はがき作文部門 銅賞

内田 彩希
山田 和佳
田母神 このか

大相撲観戦(三年生)



一月十五日、三年生は附属校外研修となる、大相撲観戦に行つてきました。浅草散策、江戸東京博物館見学もあり、大変楽しんでいました。両国国技館では、初めて相撲を観戦しました。迫力があり、すごいと思いました。相撲好きの友人にかっこいい力士がいるということや、横綱がとても強いということを知っていたので、知っている面白かったです。(下山夢結)

陶芸体験(二年生)



二月三日、二年生は益子で窯工場の見学をした後、手びねりという手法で実際に抹茶碗作りを体験した。生徒たちは、思い思いの作品を熱心に作成していた。最初はなかなか感覚がつかめず、上手に粘土が扱えませんでした。次第に楽しくなりコツも分かってきました。この茶碗は三年生の茶道体験で使用するので出来上がりが楽しみです。今回の体験では、機械では表現できない、一つひとつ異なる手作りの作品の良さに気づくことが出来ました。(黒瀬愛佳)

茶道特別体験(一年生)



二月十九日、一年生の茶道体験を行なった。今回もさまざまなお話を聞き、より茶道への理解が深まったようである。お茶の先生のお話で一番興味深かったのは、「お茶は五感で楽しむことができる」ということでした。私は、おいしいお茶やかわいらしいお菓子ばかり注目していました。しかし、このお話を聞いて、お茶を点てるときの心地よい音と一緒に、お茶を飲むことが出来ました。今回の茶道体験にもいかしたいと思えます。(田島琴理)